

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要（事業所記入）】			
事業所番号	2272300571		
法人名	医療法人財団百葉の会		
事業所名	グループホームおとなりさん		
所在地	静岡県富士市五貫島160-1		
自己評価作成日	平成31年1月31日	評価結果市町村受理日	平成31年3月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index_php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigyosyoCd=2272300571-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A
訪問調査日	平成31年2月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・平屋作りの建物、天井も吹き抜けで開放感のある施設です。畑では季節の野菜、果物や季節の花が咲き、デッキより四季を感じる事ができます。

・”こやまケア”を核として、お一人おひとりに寄り添ったケアの実践に職員一丸となって取り組んでいます。ご家族や地域の方々との関係性を大切に、一緒にお一人の方を支えられように心掛けています。

・職員は、研修参加に努め目標に向けてのケアを実践しています。

・看取りケアにも力を入れ、隣接する老健(ききょうの郷)との連携をとっている。

・法人としての研修会にも積極的に参加している。ISOによるケアの質向上にも積極的に取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

時節にはさくらんぼや蜜柑の実る事業所の庭にはジョウビダキも飛来し、「安心なところだよ～」と伝えているかのようです。運営推進会議は4回を家族会併催とし、毎回テーマを決めて進めています。第1回目は『看取り』で、DVD「老衰死 穏やかな最期を迎えるには」を観賞し、家族からは「こうなるんだね」「兄弟とも話をしなきゃ」といった感想もでて、職員は「家族の気持ちが聞けてよかった」と双方「やってよかった」に結ばれています。第二回の『食について』では、「食器を寄付したい」と民生委員から声が上がり、事業所でも「エピソードがでて有意義なので」と、回想的に家族が本人語りをする企画につながり、功奏の連鎖が続いています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人事業計画を基に施設事業計画を作成し、施設目標から個人目標につなげ、職員の意欲を高めている。事業計画の説明により、職員の共有を図り、目標としてケアの質向上に努めている。	事務所入口には「個人目標」が貼り出され、職員間で共有できるよう図られ、また「なかなかコミュニケーションが…」ということが確認されると、昼礼を始めたりと、「速やかな改善」が根付いています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のボランティア受け入れを積極的に行っている。毎月認知症カフェの参加にて地域の方々と交流をしている。	実習生として高校生2名5日間で2組、看護学生2名が3日間、中学生の福祉体験は3名が1日と、若い人の出入りもあり、認知症カフェでは職員が「認知症について」との講師を担っており、地域貢献が叶っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護、看護実習生、福祉体験の受け入れを行っている。認知症カフェにて認知症についての講師を行う。次年度は別の看護学校の実習受け入れの申し込みあり、受けている。 見学の対応と相談対応を行っている。 駆け込み110番の協力。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	”老いと最期の時”食について”防災対策について”とテーマを設けて皆さんとディスカッションをしている。そこでの意見をサービスに活かしたり、一緒に考える機会としている。数回はフロアで行う事で、日常を見ている。	運営推進会議6回の内4回を家族会と併催していることから、家族の参加率も維持されています。テーマを決めた取組みからは、毎回新しい発見もあり、次々とアイデアがでていて、有益な場と成っています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にて、市職員にご意見をいただく。集団指導に出向き情報を収集、内容によっては直接問い合わせをする。地域ケア会議への参加をしている。 GH連絡会にて、行政の方から情報収集している。	富士市介護保険課と地域包括支援センターからは運営推進会議に足を運んでもらえ(交代参加)、土曜日開催でも調整くださっています。事業所でもグループホーム連絡会へ積極的に参加しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の指針を設ける。委員会による現状把握と対策を話し合い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。同法人のグループホームと身体拘束について話し合い、ポスターや劇を作成するなど、趣向をこらして意欲高まる勉強会へつなげている。	本年度法改正に係る書面整備や取組みは概ね完了しており、身体拘束廃止委員会が機能しています。本件を契機に更に取組みを強化し、改めて「身体拘束ゼロ」の再宣言をおこない、チェック項目の中にある外部研修への参加も果たしています。	年度末に向けて、身体拘束廃止委員会に係る書面を改めて見直すと、なお安心です。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアル作成、マニュアルに基づいた勉強会にて学ぶ機会をもつ。カンファレンスにてケアを話し合う事で防止に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員の勉強会の機会はしっかりとできていない。保佐人を利用している方が1名おり連携を図っている。 管理者が研修参加し伝達していく予定。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項内容は、説明を行い理解・納得をいただく。変更時は家族会にて説明、個々に説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	お客様アンケート・ご意見箱・音鳴さんを実施。アンケート結果は改善内容を提示と郵送している。会議にて改善実施進捗を確認している。面会時には様子を伝えている。	芋煮会では体調を崩している人を気遣い「快気してから皆でやろう」と、他の家族から意見が挙がっていて、ヨコの関係も作られていることが覗えます。また家族が紙芝居ボランティアでも関わってくださっています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見をリーダー会議にて検討している。定期面談や必要時の面談にて職員の意見を聞き反映できるようにしている。時代に合った職員を大切にすることを管理者が研修している。(管理者研修)	「職員を大切にしよう」という姿勢から労務管理への着目度も高く、上位者も「承認や傾聴も大事」と認識しており、食事の作り方や書式変更などにおいて現場はボトムアップの態勢へと自然に移行しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人としてリフレッシュ休暇、ハッピー休暇制度を設けている。取得を推進しており、残業の削減に取り組む方針。 個人目標を設定し、上期下期の進捗確認をして向上につなげている。職員評価(自己評価→上司評価)を実施し、昇格、賞与に反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人研修、外部研修、事業所内勉強会に参加してスキルアップをしている。 採用者へのOJTを実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会、グループホーム交流会で情報共有や交流を図っている。今年度は市内のグループホームスタッフがケアについて話す機会を持てた。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人、家族面談と利用事業者様からの情報をまとめ、職員間で情報共有をしている。日常生活ではお客様の声に耳を傾けている。ご本人の生活習慣を大切にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に、ご家族の困っている事心配な事、要望をしっかりと聴くように努めている。入居後の様子を電話にて伝え、わからないことは教えてもらえるよう声をかけて関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回面談時に、現段階でどのようなサービスが必要かを見極め対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活歴や趣味を情報共有し、日常生活の中で職員と一緒にいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に日常の様子を伝えながらも、会話から昔のことを教えていただくように努めている。行事ではご家族と一緒に過ごしてもらうようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や親戚の方の面会も居室でゆっくり過ごしてもらえるようにしている。ご本人が遠くの知人や家族と手紙でやりとりできるように支援している。	便箋などを携えていて、家族に手紙をしたためる人や、併設事業所の職員や馴染みの子どもたちへ絵手紙のような形でメッセージを届ける人もいます。以前通ったデイサービスに再会を楽しみに訪ねる人もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お客様全員が楽しめるレクリエーションを行い関係を支援している。気の合う方と会話ができる、趣味が合う方が楽しめる様に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご逝去での退去後通夜等に参列させていただいたり、手紙をお出して、いつでもお立ち寄りくださいと添えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活より、ご本人の言葉を大切にしながら記録している、言葉以外にも表情や行動をカンファレンス等で検討し意向を把握に努めている。	ブログアップを適宜おこなうとともに、「おとなりさんブログ集」と名づけたアルバムを用意し、電子系が苦手な家族が紙媒体で見ることができるよう工夫しており、そこから常より会話も弾み、話題が広がっています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	担当を中心にご家族から情報を収集をして職員間で周知してケアに活かしている。日常の会話からも昔の暮らしを把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の健康チェック、生活の様子を記録している。昼礼にて現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の意向を確認をしカンファレンスにて職員より意見をもらい介護計画を作成している。サービス担当者会議ではご家族も参加している。	センター方式C-1-2(私の姿と気持ちシート)をアレンジした「〇〇様を知ろう!!」を家族と居室担当者各々が作成し、2つを抱合している真っ最中で、その人の隠された情報発掘は介護計画書に反映される予定です。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の申し送り、生活記録や医療・家族連携記録等に記録をして職員間で共有している。昼礼にて意見をまとめ実践・反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	隣接の老人保健施設との連携を図り、お客様の希望に応じるように努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア、慰問等で地域との交流の場を設けている。カフェへの参加やグループホーム交流会にも参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	各主治医と定期的な往診にて連携を図っている。体調変化時も主治医と連携を図り指示を受けている。	訪問診療をおこなう3つの協力医は事業所で特徴を家族に説明したうえで適宜選んでもらい、全員がいずれかの協力医に変更しています。受診内容は「医療・家族連携記録」に時系列で詳細に記録されています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接の老人保健施設の看護師に定期的に来訪してもらい相談と健康管理をしている。緊急時対応等にも連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族と連携を図りながら、入院先の病院へ訪問にて状態を把握し、病院関係者との情報共有と連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に看取りの指針を説明。意向により主治医に相談、同意を交わした後、医療、家族、スタッフと協働で看取り介護に取り組んでいる。	16年前の開所からの利用者を含め、10数名をお見送りしています。法人の看護部会で制作した「看取りのガイドライン」が事業所のバイブルとして浸透しており、また隣接の介護老人保健施設で発足した「看取り委員会」にも加わることができています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルがある。近隣の施設看護師による緊急時の勉強会を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災委員を中心に、近隣の老人保健施設と連携を図り、防災訓練を2か月毎のペースにて訓練を実施している。防災管理者が研修会参加し、知識を習得する努力をしている。法人として防災用品の購入を計画的に実施している。	通報訓練では消防署と連携し、消火器の取扱いは防災業者の指導を得て、隔月で地震、火災、津波、夜間と設定を変えて実施しています。投光器やさすまた等必要な機材や備品は本部が選定、支給しています。	富士川の氾濫は予測されることとしてオリジナルの風水害マニュアルを備えることを期待します。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	こやまケアをグループで取り組み、年2回の施設間評価や自己評価等で見直し、より良いケアに繋げている。	4月～2月（現時点）までの外部研修、法人研修、所内研修において述べ50名余の実績を誇り、また身体拘束適正化については、法人内の事業所で共同制作したDVDを鑑賞する場も設けています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活でご本人との会話を大切にしており、希望等は企画に繋げている。ご本人が自己決定できるように声掛けをしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の生活習慣や趣味などを大切にしていひとり一人のペースに合わせて支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で洋服を選んでいただいたりしている。整容にて身だしなみを行っている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材を配達してもらい、調理をしている。お客様に味見、配膳、食器拭きをしてもらっている。食器を揃え、目でも楽しめる様に工夫している。誕生日や行事では、献立を選んでもらっている。	月1回は「セレクトメニューの日」があります。食べ方の様子観察から器を変える等、気づきの対応は高く、またホットプレートでホットケーキを焼いたり、おはぎを食べたりなどの調理レクや時節料理にも取り組んでいます。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量は都度記入している。外部業者がカロリー計算等はしている。ご本人に合った食形態を提供している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯ブラシやガーゼ等そのの方に合った口腔ケアをしている。食事前には嚥下体操を毎日行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はトイレでの排泄を基本としている。個々の排泄がつかめるよう、バイタルチェック表、生活記録に記入をしている。	排泄パターンを掴むために観察を念入りにおこなっています。訴えには即応し、癖や動きなどで示す人には職員のアンテナを高くして、「失敗を増やさない」ことを職員共有で旨としています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事バランス、水分摂取を心掛けている。食物繊維摂取について寒天ゼリーの提供を行っている。腸の動きをよくするように活動を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	季節にはゆず湯、しょうぶ湯などで入浴を楽しむ、湯船にゆったりとつかりながら会話を楽しみながら入浴をしている。	2人介助が必要な状態の利用者が2名いますが、全員湯に浸かる歓びを味わうことができ、歌が飛び出したり、運動を始める人もいて、職員と話しこむ等フロアでは見せない姿があり、愉しんでいることが伝わります。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人ひとりのその日の睡眠状態や体力に合わせての日中休息を設けている。室温、湿度、寝具等に配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服チェック表にて処方薬をしっかりと内服している。変更時は薬情報を周知している。薬剤師と相談確認をしている。ご家族にも変更内容を伝えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人、ご家族からの情報を元に役割や楽しめる事をプランとして支援している。企画では全体や個別で実施している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	デッキにでて外気浴や近隣の施設まで散歩、カフェや音楽教室等へ参加している。ご本人の希望を大切に外出企画を行っている。	花見を年間計画に位置づけ、コンサートや浴衣を身に着けてのお祭りなど随時外出が年数回ありますが、重度化に向かい状態も様々のため、誕生月に居室担当者と出かける「個別外出」が中心です。「行きたい」というより「食べたい」での外出が増えています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	法人として個人のお金を預かることはしていないが外出や、企画で使用する金銭を仮払いとしてお渡しし、使用分を請求する仕組みを取っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族、知人に手紙を書いたりできるように支援している。遠方の娘様から手紙が届くとお渡しして会話を広げている。在宅からの習慣があった方は電話連携ができるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季を感じていただけるように、お客様と一緒に作品を作り掲示している。時間帯に合わせての音楽を流している。室温、湿度、換気等に気を配っている。	天井高で、竹と和紙でつくった照明やシーリングファンなどの掃除は職員では危険なため、業者に年1回入ってもらえており、大変気持ちの良い空間づくりに一役買っています。換気は1日2回、温湿度計も設置しています。	トイレの背もたれはアイデアと簡便性は高いものの、衛生面では便の飛散など課題が残るかと思われるため、再検討を期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お客様間の相性に配慮した席としている。ソファでくつろぐ方や、他の方の居室で一緒に楽しむ方、居室で一人の時間を過ごす方など居場所作りをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家庭で使っていた馴染みのものを置いている。ご家族の写真や、昔の写真を飾っている。自分の作品も部屋に飾り眺められるようにしている。	ベッドや洗面台が備わっているため、大きな持込みはありませんが、伴侶の遺影を傍らに毎朝お経を唱える人の居室には一目でお嫁入り道具とわかる衣紋掛けがあります。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全な環境整備を心掛けている。お客様に合わせた危険個所の保護も工夫している。		